中１　野原はうたう　暗記プリント（光村図書）

個別指導塾　Ｊアカデミア

F 作者	工藤直子
F 形式	口語自由詩
E 口語／文語	現在の言葉／昔の言葉
D 詩の形式（３）	①定型詩（五七など、一定の音数で構成された詩） ②自由詩（一定の音数のリズムがない詩） ③散文詩（パッと見、普通の文章のような詩）
F 詩で、行と行の間にスペースをあけて区切る言葉の単位を何というか	連
E「あしたこそ」はいくつの連に分けられるか	二連
E 比喩（何か／種類３）	たとえ ①直喩（「～のような・ようだ」などを使った比喩） ②隠喩（①③でない比喩） ③擬人法（人でないものを人にたとえる）
F「わしのしんぞうは たくさんの ことりたちである」や、 「はなひらくひを ゆめにみて」に使われている比喩の種類	擬人法
D 倒置法（何か）	言葉の順序を普通とは逆にする
F「とんでいこう　どこまでも」に使われている表現技法	倒置法
E「どきどき」「わくわく」という言葉の種類	擬態語（物事の状態や感じを、音声にたとえて表した語）
D「あしたこそ」 「おれはかまきり」 「あきのひ」 「いのち」は、それぞれ作者がどんな生き物に成りかわって作った詩か。	「あしたこそ」→たんぽぽ 「おれはかまきり」→かまきり 「あきのひ」→のぎく 「いのち」→けやき

自分のランクと、それより下のランクのもの全部

～四つの詩と四季について～（確認テストにはでません。）

「あしたこそ」→春の詩。スタートの季節にふさわしい、飛び立つ側のあふれる希望が伝わってくる。

「おれはかまきり」→夏の詩。夏の暑さに負けない、かまきりの力強さが感じられる。

「あきのひ」→秋の詩。「くるくる」という言葉で、秋のあっという間に落ちる夕日の感じが表されている。

「いのち」→冬の詩。葉の落ちたけやきとそれに集まった鳥という冬らしい組み合わせで、温かみのある風景。